水郷柳川 旧街道ドライブマップ

かつて柳川城下周辺を、七つの街道が通っていました。田中道（久留米柳川往還）、肥後街道、三池街道、柳川瀬高道、薩摩街道（坊津街道）、福島道、瀬高道です。今も、当時の雰囲気を残す町並みや追分碑を旧街道筋で見ることができます。旧街道筋には魅力的なスポットがいっぱいです。いつもとはひと味違うホリデードライブを楽しみませんか。

■写真の番号1〜26で、マップ中の位置を確認できます。

21 逆井手堰と下田橋の桝形
旧三池街道は、観照寺前の下田橋から直角に折れ南下。

22 玉鶴姫百八人塚（宗樹寺）
塩塚城で自害した玉鶴姫（蒲池鎮並夫人）の供養塚。

23 雲龍ゆかりの海童神社（皿垣開）
柳川出身の江戸末期の横綱雲龍が奉納した鳥居と石灯籠がある。力石も境内に。

24 江越八幡宮（栄）
江越八幡海岸灯台公園の近くにある八幡宮。参道の入口には水天宮がある。

25 旧三池街道中島の町並み
攻撃を防ぐために街道を直角（桝形）に曲げて造った町並み。

26 旧三池街道矢部川中島の渡し
中島の渡しは現在の浦島橋のすぐ上流にあった。

柳川市を通る 旧街道のスポット

旧田中道（久留米柳川往還）

6 旧街道風景（矢加部）
田中吉政公が整備した柳川城下・久留米城下を結ぶ街道（往還）は田中道と呼ばれた。

7 藩境木跡案内板（矢加部）
柳川藩と久留米藩の境界にあったという境木跡案内板。県道23号沿いにある。

旧三池街道

8 江浦城本丸跡（208号沿い）
江浦城は代々永江氏の居城だったが、後に柳川城の支城となった。

9 旧街道風景（みやま市高田町）
二川役場跡碑、料亭、商店などがあり、旧街道の雰囲気が残っている。

10 濃施三軒屋追分碑
三軒屋は柳川、瀬高、三池に至る街道の分岐点だった。背景は楠田川と柳川橋。

11 昔ながらの三軒屋飴屋
追分碑の近くに、幕末期創業の飴屋が現在も製造販売を行っている。

旧柳川瀬高道

12 一里石（一里石バス停）
柳川城下の札の辻（辻町）を起点として旧柳川瀬高道沿いに置かれた一里石。

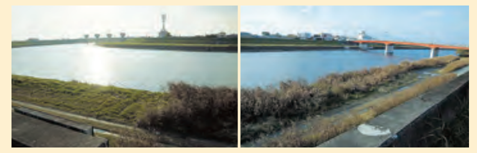
旧瀬高道

13 思案橋（瀬高町下庄）
近くに遊郭があり、男たちが「行こか、戻ろか。」と思案したという橋。

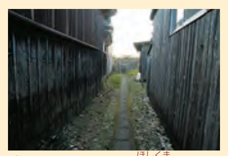
旧薩摩街道

14 瀬高宿の三叉路（瀬高町上庄）
旧薩摩街道と旧柳川瀬高道が交わる三叉路。左奥が御茶屋跡といわれ、参勤交代の折の薩摩藩をはじめ大名の休泊所となった。

15 伊能忠敬測量基点之碑（瀬高町下庄）
443号の南側、旧薩摩街道の元町公民館前に、文化9年(1812)伊能忠敬一行がこの地方を測量した際に基点とした碑が立っている。



16 矢部川瀬高の渡し跡（左：瀬高堰、右：瀬高橋の合成写真）
瀬高の渡しは街道を結ぶ要所で、大いに賑わった。参勤交代の武士や、商人、町人、百姓などが旧隅合酒屋脇の通称すめん坂を行き来し、その坂を下った所に渡しの乗り場があった。現在の瀬高橋の下流、写真の真ん中辺りが瀬高の渡し跡。



17 旧すめん坂（現星隈酒造横）
旧隅合酒屋の脇を瀬高の渡し場に下る石畳の道。路地の奥の矢部川の堤防に上ると16の写真の風景が広がる。

18 旧隅合酒造（現星隈酒造）前
旧薩摩街道沿いの星隈酒造（写真右、なまこ塀の建物）の手前に旧すめん坂が残っている。

19 二里石（瀬高町大竹）
柳川城下（札の辻）から二里の地点に置かれた二里石跡。JR鹿児島本線沿いにある。

旧肥後街道

20 本船津町町家（目野氏住宅）
諸国の物産、藩内の特産品が集まる貿易港として賑わった本船津町。

柳川城と領内の支城・在町を結ぶ街道

ミニ旧街道史

1 五重殿守（柳川古文書館収蔵）

柳川は、掘割に浮かぶ町。歴代の領主は、この美しい水の都を特色ある城下町に整備しました。柳川城は、永禄年間（1558〜70）に蒲池鑑盛が築城。城主は、蒲池氏から龍造寺氏に移り、豊臣秀吉の九州平定後、立花氏に変わりました。現在、柳川城本丸跡は、公園になっています。かつて二の丸と三の丸を結んだ欄干橋の擬宝珠のうち四個が、松月文人館筋の欄干橋に使用されています。それには慶長四年（1599）の銘が刻まれ、立花宗茂時代の製作と分かります。関ヶ原の戦い後、筑後に入封した田中吉政は、立花氏の柳川城を拡張して五層の天守閣を築き、これを居城（本城）としました。そして、次男吉信を久留米城に、三男康政を福島城に入れ、さらに赤司・猫尾・城島・榎津・松延・鷹尾・中島・江浦の各支城に一門・重臣を配置しました。近世の交通は、江戸と天領、城と城を結ぶ街道として発達しました。柳川城と久留米城を結ぶ久留米柳川往還（田中道）、福島城とを結ぶ福島道、三池陣屋とを結ぶ三池街道などです。元和六年（1620）、柳川城に再封された立花宗茂は、領国経営を推進。元禄文化が上方を中心に繁栄すると、地方の農村にも貨幣経済が浸透し、柳川藩でも領内に十三の「在町」（農村に町立した集落）が形成されました。宿場町としての在町には、瀬高上庄町・下庄町・原町・山下町・小保町・渡瀬町・三池町など。宿場町以外の在町には、本郷町・野町・本吉町・兼松町・中島町・江浦町などがありました。街道は、人と物を運び、文化を移動し、定着させました。

2 柳川城址本丸跡（本城町）

3 欄干橋の擬宝珠

田中吉政公の干拓事業、慶長本土居（堤防）

関ヶ原の戦いで石田三成を捕えた功により筑後一国の藩主として柳川城に入った田中吉政は、数々の土木工事を行い社会基盤を整えました。街道の整備（田中道）、治水・利水工事、柳川城の修築など多くの業績を残しています。その一つが、慶長本土居と称される干拓堤防。大川新田から柳川〜大和〜三池郡渡瀬までの有明海沿岸32キロメートルに及び、広大な土地を干潟や湿地から農地に変えました。本土居跡の多くは現在、道路として利用されています。

4 江越八幡海岸灯台慶長本土居跡碑

5 「新田龍神宮」の碑と「本土居潮止口」の案内板